第2章　めざす姿

1　めざす姿　「美しい景観のくに、北海道」
2　めざす姿の実現に向けた基本姿勢
3　各主体に期待される役割

1　めざす姿　「美しい景観のくに、北海道」

北国らしい家が建ち並び、沿道には季節の花や緑が手入れされている住宅地の景観や、開拓によって形づくられた格子状の区画などの歴史が息づく豊かな田園の景観、炭鉱や鉄鋼業など産業の発展により形成された市街地の景観、アイヌの伝統、縄文遺跡と近代開拓などの歴史が重なる文化的景観、世界的にも認められた、知床世界自然遺産をはじめとした自然景観など、地域らしさを醸し出す様々な「良好な景観」が、北海道の各地に存在しています。

すべての道民がともに力を合わせ、「良好な景観」が北海道全体に形成され、点から線、線から面へと広がり、お互いが共鳴し合いつながり合って、それぞれの魅力が光り輝き、そして時を経て成熟していく「美しい景観のくに、北海道」をめざします。

めざす姿

美しい景観のくに、北海道

たくさんの良好な景観が北海道全体にあふれ、共鳴し合って光り輝き、時を経て成熟する

【めざす姿のイメージ】

次の７点が、めざす姿のイメージです。

・北の大地に広がる、緑豊かな平野や森林、山並み、神秘的な湖沼、河川、一面が白一色で覆われた雪原、流氷が到来する冬の海岸など、雄大な自然が最大限活かされ、その地域固有の歴史・文化・風土などを地域の人々が共有の財産として大切にしており、個性や特性が活かされた魅力溢れる地域が全道各地に形成されています。

・雄大な山や河川、森林、海岸などを背景に、パッチワークのような畑が広がる豊かな農地や、何キロにも渡って重なり合いながら続く防風林、自然と調和しつつ賑わいのある港や漁村、北国らしいデザインや色彩が調和した建物などが建ち並ぶ緑豊かな市街地など、北海道の広大なスケール感を活かした一体的、連続的な景観が形成されています。

・そこに暮らす人々が、自然や郷土に愛着と誇りを持ち、目標や理念を共有して、その地域にふさわしいルールをつくり、実践しているとともに、行政機関や民間企業、活動団体などが、制度づくりや資金協力、マンパワー、アドバイスなど、必要な支援が提供されるよう、協働で取り組んでいます。そのことによって、どこでも地域らしさを活かした景観づくりが進められています。

・景観づくりを通して、環境保全や観光振興、地域ブランドの創出、商店街の活性化、住環境の向上などが図られ、様々な分野での人々や経済の交流が生まれ、人口減少社会においても持続可能な安らぎと希望に満ちた地域社会が形成されています。

・日々の継続した景観づくりが積み重ねられ、次の世代に引き継がれ、時を重ねても色あせず、時の経過によって成長、成熟した景観が形成されています。

・建物などの建築、構造物の建設、土地を開発したりなどする際には、周辺景観との調和や地域の良好な景観資源※への眺望に配慮することを常とし、北海道のどの地域においても良好な景観が広がっています。

・良好な景観の中で日々の生活を送ることは、豊かなライフスタイルの実現であるとともに、豊かな心を育てる情操教育そのものとなっています。さらに、こうした環境の中で育った子供たちが、地域に誇りと愛着を持ち、良好な景観づくりを実践していくという良い循環の中で、地域の魅力が創り出され、地域が維持されています。

2　めざす姿の実現に向けた基本姿勢

「美しい景観のくに、北海道」を実現させるためには、地域に関わる多様な主体が協働し、次の基本姿勢を持って取り組んでいく必要があります。

めざす姿の実現に向けた基本姿勢

- 地域らしさを尊重し、活かしていきます
- みんなが知恵や力を出し合います
- 日々のたゆみない積み重ねを大切にします

基本姿勢1　地域らしさを尊重し、活かしていきます

地域の自然や歴史、文化等が織り重なることにより、そこでしか生まれない、愛着や誇りの持てる良好な景観が形成されます。そうするために、生活する人の目、外から訪れる人の目も加えながら、地域の特性を知り、地域らしさとは何かを考え、育んでいく景観づくりに取り組みます。

北海道では、これまでも生活に根ざした生成（きな）りの景観※を大切にしてきました。むやみに飾り立てたり、形だけを真似するのではなく、**地域の素材を活かし、地域にふさわしい色彩を活用し、環境と共生したライフスタイルや生産の姿が映し出された景観を、「地域らしさ」として大切**にしていきます。

基本姿勢2　みんなが知恵や力を出し合います

景観づくりには、住民や行政、企業、公益法人をはじめとする各種団体、専門家など様々な立場の人が知恵を出し合い、環境や産業、教育、文化など様々な分野からのアイデア、力

を寄せ合っていくことが大切です。

様々な立場や分野の人が、話し合いの場を持つことで、地域の景観の成り立ちや特性に気づき、様々な目線から地域らしさのイメージを模索し、確認し合いながら、めざす姿の実現に向けての役割分担や支援の内容などについて考え、その地域にふさわしい協働のカタチをつくっていくことを大切にしていきます。

基本姿勢3　日々のたゆみない積み重ねを大切にします

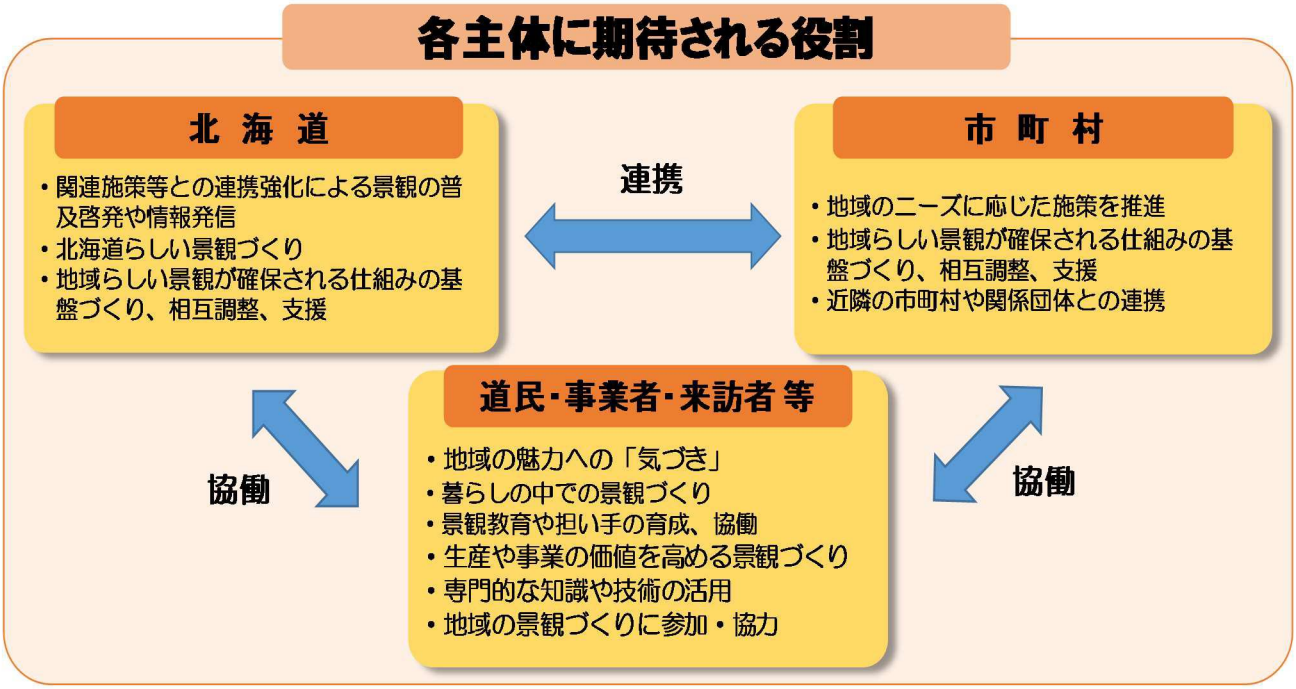
暮らしの中の身近にある景観も、観光名所の風光明媚な景観も、良好な景観を育て、価値を高めていくのは、地域の人々の日々の活動の積み重ねです。一人ひとりの活動は小さなものであっても、多くの人を巻き込み、たゆまず継続していくことで、大きな成果につながっていきます。

景観づくりにおいては、人と人との結びつきも培われていきます。地域の活動のネットワークの広がりが、より深い充実感を生み、成果や喜びを分かち合う仲間がいることが継続への力となります。

時間をかけ、育てていくプロセスをみんなで楽しみながら、一つひとつ丁寧に、身の丈にあった活動をたゆみなく継続していく、堅実な取組を大切にしていきます。

3　各主体に期待される役割

めざす姿を実現していくためには、そこで生活する人や生産や事業を行う人、維持管理や整備を行う人などがそれぞれの役割を認識し、お互いに連携・協力しながら取り組んでいくことが重要です。また、北海道を訪れる人も、良好な景観に気づき、守り、育て、そして整える一員として期待されます。



【北海道の役割】

・**庁内の関係部局との連絡調整会議等により、施策の連携を強化**し、市町村や道民等に景観づくりの支援・普及啓発、景観の魅力を情報発信していきます。

・北海道の景観特性である**広域性と多様性を大切にした北海道らしい景観づくり**に取り組みます。

・北海道のどの地域においても地域らしい景観づくりが進められるよう、規制・誘導などの制度を活用し、**良好な景観の形成において一定の質が確保されるような仕組み**の基盤づくりを行います。

・地域が主体となった景観づくりが進められるよう、**市町村や活動団体などの相互調整や支援**を行います。

【市町村の役割】

・それぞれの**地域における景観づくりの課題や地域の要望を的確に捉え、住民の理解を得ながら、景観条例の制定や景観計画などの策定**によって景観づくりの基本的方向を定め、必要な景観施策に主体的に取り組むことが期待されます。

・地域らしい景観づくりが進められるよう、**活動団体や地域住民との相互調整や支援**することが期待されます。

・**広域的な景観づくりにおいては、共通の指針に沿った取組を実践**するため、近隣の市町村や関係団体と連携を図ることが期待されます。

【道民の役割】

・道民一人ひとりが、地域の魅力に気づき、自分たちの暮らしの場が安らぎのある快適な空間となるよう、また、訪れる人が北海道の魅力を感じられるよう、日々の暮らしの中での身近な景観づくりを実践し、**地域の協働による景観づくりに積極的に参加、協力する**ことが期待されます。

・次の世代へと引き継がれ、継続されていくよう、子供たちへの景観教育や**新たな景観づくりの担い手を育成**していくことが期待されます。

【事業者の役割】

・事業活動が周辺の環境と調和するよう配慮し、**地域での協働の景観づくりに積極的に参加**することが期待されます。

・農林水産業等に携わる事業者には、その**生産活動の場が良好な景観を有する**ことに気づき、生産物の付加価値や観光資源としての価値が増すことを意識し、景観づくりに取り組んでいくことが期待されます。

・観光に携わる事業者は、**良好な景観が観光資源の価値や魅力を向上させる**ことを意識し、訪れる人、生活する人の両者に配慮しながら、良好な景観づくりに積極的に参加することが期待されます。

・建築や土木、造園、屋外広告物等の景観に深く関わる事業者には、景観づくりのための技術やデザインの向上に努め、**周辺の景観と調和する良好な景観づくりに専門的な知識や技術を活かす**ことが期待されます。

【来訪者等の役割】

・北海道を訪れる観光客や滞在者、又は、道外にいながら北海道を愛し、応援してくれる人は、**地域の魅力に気づき、その価値を地域の人と共有**するとともに、地域の良好な景観が損なわれることがないよう、景観の保全や景観づくりに参加し、協力することが期待されます。